



さいたま市議会議員（1 期目）  
市民の目線、初心を忘れずに！

佐伯かずみ NO.56



佐伯かずみは、性別・年齢・障害・国籍に関わらず誰もが  
参画できる元気なチームさいたま市を目指します。

## ありがとうございました！「一の宮通り」一部改善されました！

No.54号とNO.44号でお伝えしていました一の宮通り(大宮駅東口一番街先の別名アルディージャ通り)は視覚障害者をはじめとして高齢の方にもベビーカーの方にも優しくないと感じる歩道です。

5年後の電柱の地中化まで何もできないと当初は言われましたが、担当課により一部改善されました。ありがとうございます。これからもみなさんの声をお聞かせください。



点字ブロックのすぐわきにある塔が撤去されました。(しかしまだ右側の電柱は点字ブロックにかかったままです)



電灯が撤去されました。(明かりは電柱へ。まだ点字ブロックの正面に電柱があります)  
早い電柱の地中化をのぞみます。  
誰もが歩きやすい歩道を！

## Q 佐伯かずみのスローガンはどうやってできたのか???

「性別、年齢、障害、国籍に関わらず誰もが参画できるチームさいたま市」

A: 私にとって切り離せないのが趣味の「インディアカ」(バレーボールに似たスポーツ)です。インディアカ大会に、小さい子どもを持つお母さんたちは参加しづらい、パパに預けるのが悪い、そんな声から託児施設を会場内に設置しようとしたら、「子どもが小さいうちは自分の趣味は後回し」とか、「三つ子の魂百までも」といわれ、託児施設に反対という声がありました。男女共同参画を学び年齢に関係なく誰もが自分らしく生きられる社会をつくりたいとその時感じました。

また私は早稲田大学のスポーツ科学部でインディアカを教えています。15年前の初めて授業を持った年、「一人の学生から先生話がある」と呼び出されました。彼は「自分の名簿には「女」と載っているが、もし男子・女子と分けるときには、男子の方に入れてください。」と。彼はトランスジェンダーだったのです。その頃は今のようLGBTQ に対しての社会の認識も薄かったので、学生の出席名簿には性別が載っていました(数年後なくなりましたが)。彼に「すべての授業で先生にこうやって話しているの?」と聞くと「そうだ」と答えました。私は何とも言えないやり場のない感情を持ちました。それからLGBTQ について学びを深めていきました。

またインディアカには聴覚障害者のプレーヤーがいらして、大会の開会式では、手話通訳をつけ、わかりやすい審判の研修をするとともに、個人的には障害者スポーツ指導員の資格を取得しました。また外国のインディアカチームも呼び交流大会を開催しました。

多様性を大切に134万人、みんなで元気なチームさいたま市をつくりたいと思います。

## Q なぜ立候補したの?とよく聞かれるのですが・・・

A:理由は3つあります。

- ① 2018年5月にできた「政治分野における男女共同参画推進法」、立候補者を男女同数にしましょうという法律(ただし罰則規定なし)が成立し、女性の候補者がいないのよね、と言われ「こんな年の私でもいいですか?」と背中をおされ決意しました。
- ② 私は国の出先機関で働いていて国の施策を市民に伝える側にいましたが、なんだか国の施策が市民の感情と乖離しているように感じていました。次第に私は「市民の声を届ける人になりたい!」と思いました。
- ③ 当時私は女子大学生の研修を担当していて、彼女らに「社会を変えるアクションを起こそう」と伝えていたのに、自分では何もしていないと自省し、アクションを起こす人になろうと思いました。

◎4年前立候補した時に、40代ぐらいの女性から「よく還暦で立候補しようと思いましたね」と言われました。普通は60歳で考えることは「スポーツクラブにはいろいろかどうしようか」ぐらいですよ。

思わず笑えました~(^~)/



市政に対するご意見やみなさまのモヤモヤ、お困りごとをお聞きかせください。

朝の駅頭では市政レポートを配付。先月通算400回を達成。途中コロナで一年半自粛しましたが、選挙の時だけの駅頭にはしたくないと続けています。

みなさんのお声は右横の2次元コードからLINEでご連絡ください。

市の情報や、佐伯かずみの情報も流しています。

このチラシを手にとって下さってありがとうございました!再度お会いできましたら、次はNO.57をお読みくださいね!

